



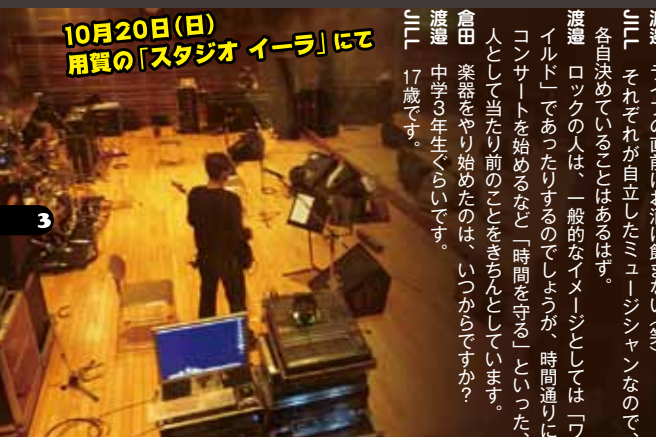
憧れのロックバンドインタビュー

PERSONZ

1984年結成のPERSONZは、1987年にメジャーデビューするとドラマの主題歌「DEAR FRIENDS」が大ヒットし、アルバム『DREAMERS ONLY』は初登場オリコンチャート第1位を獲得した人気のロックバンドです。結成30周年を迎えるPERSONZにお話を聞きました。



10月20日(日)
用賀の「スタジオ イーラ」にて



倉田 「PERSONZ」を結成したきっかけを教えてください。

三ツ 17歳の時、学校があまり好きではなく、やりたいこともわからなかった。その時に友達から「キッスやエアロスミスの洋楽バンドのライブを見に行かないか」と誘われて見に行きました。それまでは音楽をやったこともないし、ロックも知らなかったけれど、自分も「これやりたい!」と思い、メンバーを探し、バンドを組んだりしていました。今のPERSONZに行きついたのは、20歳を過ぎてから。PERSONZというバンドを結成して現在29年目で、来年は30周年になります。

倉田 バンドのメンバー内で、決めていることはありますか?

渡邊 ライフの直前はお酒は飲まない(笑)。三ツ それぞれが自立したミュージシャンなので、各自決めていることはあるはず。

渡邊 ロックの人は、一般的にイメージとしては「ワイルド」であつたりするのですが、時間通りにコンサートを始めると「時間を守る」といった、人として当たり前のことをきちんとしています。

倉田 楽器をやり始めたのは、いつからですか?

渡邊 中学3年生ぐらいです。三ツ 17歳です。

倉田 どのようにしてプロのミュージシャンになられたのかを教えてください。

三ツ 時代がバンドブームでした。月一回のライブでどんどんお客さんが増えていったところで、レコード会社やスカウトの人が見に来たりしていました。コンテストで1位を取ったりなどはなかったけれど、地道にライブをし続けて「レコードを出しませんか?」というお誘いがあつて、デビューに至りました。

倉田 新曲を考える時は、どのようなことを考えて作っているのか教えてください。

渡邊 作曲の時は、何も考えていない(笑)。曲調をこれぐらいのテンポでということはあるけれど、ベースとだけ、昔はギターで作曲をしていました。現在はベースで作っています。だいたい頭のの中で作り、その後鍵盤でコードを確かめています。ベースは単音なので、熟練しないと作曲ができません。和音が出ないとハーモニーがわからないため。

倉田 自分もオリジナル曲を作つてはみるが、これでいいのかなど悩み、何回も書き直してなかなか1曲が出来上がらないんです。自信がなくてメンバーに見せることができません。

渡邊 作詞を先にしているの?

倉田 最初は曲から考えたりしていましたが、難しく。PERSONZはどのように曲を作っていますか?

渡邊 曲が先です。曲があると、歌詞の文字数も決まってくるよね。

三ツ 私が作詞をするけど、自分が言いたいことがない限り、詞は書けない。自分自身が歌詞の中にいないと誰も聞いてくれない。自分がいて「誰かにこれを伝えたい!」という強い気持ちがないとね。

倉田 自分が書きたいと思うことを書けば、人がこれを聞いてどう思うのかも思わない。だって、これ最高だ!って出せるから。

倉田 音楽業界の中でどのような人が「売れる」のか

教えてください。

渡邊 そうだね！好きなバンドとかいる？ どうやって知ったの？

倉田 最初1の4月ごろ、X JAPANを聴いたけど、最初は興味が湧かなかったんです。でも半年後に聴いたらなぜか違って聞こえて、それからすごく好きになりました。最初はひとりてギターをやっていたけど、「自分もこの人達みたいになりたい」と思い、自分もバンドを組むことにしました。

「J」いろんなジャンルの音楽を聴くといひよ。いつの時代もジャズ・ロック・フォーク・アイドル・歌謡曲などあるけれど、その時々ブームもあるからね。私たちは「生で歌う・演奏する」ことを前提に思っています。自分の目の前で表現されるということとは大きいし、驚きもある。30年間バンドをやっているけれど、いつでも見たければ来てもらえばいいという...ある意味、意地もあるかな(笑)。

渡邊 カラオケがブームの頃は、一時期「バンドなんかカッコ悪い」と思われた時があったんだ。自分が高中生の時は独学で音楽をやりに始めて、そのうち「友達と」一緒にやりたいな」と思うようになった。昔は、譜面なんてなかったから、全て「耳コピー」をしていたよ。耳で聴くことは自分の基礎となるからできるだけ、自分たちの耳で聴いて演奏することを繰り返した方がいいよ。今は僕たちのバンドの譜面とか売っているけれど、実は自分たちの音とは少し違っているから。

倉田 これまでの「PERSONZ」の曲の中で一番気に入っている曲とその理由を教えてください。
JILL これまで19枚アルバムを出して200曲以上あるけど、中でも「DEAR FRIENDS」は、結成してすぐの曲で、デビュー前の曲でもあり、好きな曲。すごくシンプルでいつまでも色あせず、いろいろな人に受け入れてもらえる曲。今の中高生にもわかるだろうし、大人になってまた聴いてもわかる曲だと思います。

ライブの時に 気をつけていることは？

一方向的に音楽をたたきつけるのではなく、お客さんと一緒に楽しめるようにと、思っています。お客さんに「あーよかった」と帰ってもらえるように、お客さんの反応を見ながら、演奏しています。

PERSONZの初ライブは 緊張しましたか？

いろいろなバンドと一緒に月に1回ぐらい新宿のライブハウスで行っていました。PERSONZを結成する前も各自でバンドを組んでいたんで、PERSONZとしての初ライブもドキドキという感じはなかったです。

ライブを盛り上げるための秘訣

ライブにたくさんの お客さんを呼ぶには？

自分たちの頃は、どんなバンドでも中高生がライブを見にくるというブームだったね。ブームが去ると人も減る。でも「音楽っていいよね J」という人は、また見に来ってくる。音楽が好きなのは多いから。

どうしたら、ライブが 盛り上がりませんか？

一番は演奏力。そしてメンバーのみんなが演奏しひとつの音になり、伝わるということが大きいと思います。それが盛り上がるということにつながっていきます！

PERSONZ in 渋谷公会堂

▲渋谷公会堂の前にて

今回、まさかのPERSONZさんからライブのお誘いがあり、渋谷公会堂のライブに招待されました。会場に着くとお客さんがすくいて、さすがフロアのライブだと思えました。自分たちが招かれてライブを見ることができるとも興奮しました。そしてライブが始まるとお客さんがすごい騒ぎ出し、みんながジャンプをしたり、すごかったです。そしてライブが中盤になると「J」さんが「座ってください」とお客さんに言っていてお客さんに対する優しさが伝わってきました。終盤になるとPERSONZのヒット曲などで会場のお客さんとすごく盛り上がりつつありました。そしてアンコールも何回もやってすごさうビス精神があるなあと思いました。このライブで思ったことや感じたことを今後のバンド活動に生かしたいと思っています。ご招待いただき、ありがとうございました！

PERSONZ profile

1984年 JILL、本田毅、渡邊貢、藤田勉でPERSONZを結成。1987年にインディーズレーベルからリリースしたミニアルバムがインディーズチャート1位を獲得。同年にはアルバム「PERSONZ」でメジャーデビュー。ドラマの主題歌「DEAR FRIENDS」や、アルバム「DREAMERS ONLY」は初登場オリコンチャート第1位を獲得する。その後1992年にギタリスト本田毅が脱退するが、2002年に10年振りに復帰。現在はオリジナルメンバーで活動中。2013年10月26日にオリジナルメンバーでは24年振りとなる渋谷公会堂のライブを行い、結成30周年を迎える2014年は武道館でのライブを予定している。

取材を終えて



PERSONZはティーンズ・フェスタ
で中高生と共演 (p.9) もしました。

結成時から今までの30年間のことをいろいろ聞かせてもらいました。取材させてもらった「J」さんや渡邊さんはやさしく、全員の質問に答えてくれました。その後の追加取材でライブを見たとき、フロアの方はすごいと思いました。それは会場に出てきた時、周りの観客が大きな声でメンバーの名前を呼んで、それと同時にステージにPERSONZのメンバーが出てきた時にそう感じました。

野呂瀬晋也

中山侑紀

みなで演奏することの楽しさと難しさを知りました。僕は前々バンドを組むのは切羽詰って音楽ばかりやり、大変な思いでいました。が、今回の取材でちょっと気軽に楽しく出来ることを知り、実際にPERSONZさんとのライブを観に行った時、とても楽しくやっていた観客の人達も盛り上がり、自分もこのバンドの経験、これからバンドをするために、自分自身にもいろいろとつながっていきそうです。

倉田海斗

磯崎敦



4

倉田 どのような機材を使用していますか。

渡邊 マルチですね。いろんな音があり、たくさん持つて歩かなくていいところが便利ですね。

倉田 機材のこだわりはありますか？

渡邊 特にないけど、ペーシスはとにかく弾きやすいのがなによりです。重いものは大変だね。一度上手い人が弾いている楽器を弾かせてもらおうというよ。また楽器を作っている工房に行ったりもするけれど、作っている人の顔が見える楽器だと安心して使うことができるね。

倉田 バンドでこだわっていることを教えてください。

渡邊 長く一緒にやってきたメンバーだと、メンバーでいちいち言葉で説明しなくても、わかり合えます。そういう意味での言葉のコミュニケーションは必要ないね。

「J」メンバーそれぞれが、やりたいこと、得意なこととは確認しなくてもわかります。

倉田 セッションが苦手なですが、アドバイスをお願いします。



願います。

渡邊 僕も苦手...。「人と一緒に合わせる」ことがセッション。「誰かと一緒に演奏する」ことがバンド。そういう機会を増やしていくしかないかな。またいろんなジャンルの音楽を聴くこともとても大事で、ジャンルに関係なく「いいな」と思うことが自分の栄養になったりします。

倉田 10月26日にライブをされるそうですが、どのようなライブなのでしょう。

「J」自分たちは29年間やってきて、ありがたいことにホール・アリーナ・武道館などでやってきた。今は事務所の人が何とまでやってくれたのですが、昔は、一から全部自分たちで決めてやっています。今回やる渋谷公会堂でも24年前にライブしています。その時に来てくれた人達がつかまらないようにということがあります。懐かしい曲もあるが、懐かしさだけでは終わらないものにしたいです。世代もさまざまだと思うので、「PERSONZっていいな」と思ってもらえるようにしたいです。

(実はこのライブに招待されちゃいました。その内容は次ページで紹介しています！)

倉田 そのライブの「みどころ」を教えてください。

「J」「あーうん」の呼吸を見て欲しいです。4人の呼吸が合っているところがみどころ。曲の間のMCも特に決めています。たまに「あれっ？」という時もあるけど... (笑)。

倉田 最後に、これからミュージシャンを目指す中高生たちへメッセージをお願いします。

JILL いろんな音楽を聴いてください。10代や中高生の頃に聴いた曲は一生残ります。勉強も大事だけど、気持ちの潤うものがすごく必要。いい曲にめぐり合つと、宝石を見つけた気持ちになりますよね。聴くもよし、やるもよし。貪欲になつてもらいたいです。

倉田 貴重なスタジオ練習の時間を割いていただき、本当にありがとうございました。